

(3) 高等学校

1) 7年間使っていますインターネット

名古屋市立西陵商業高校は、94年にインターネットの専用線が入って以来、授業でのインターネット活用を目指してきました。また同時に国際交流にも力を入れ、世界6カ国と共に名古屋での「ワールドユースミーティング」を開催したり、また高校生の国際交流を推進する「アジア高校生インターネット交流プロジェクト」を（財）コンピュータ教育開発センターと共に推進してきました。

2) 大きく変わる高校でのコンピュータ活用

文部省は2001年までにすべての学校をインターネットに接続し、2003年からすべての高校に「情報」という教科を設置します。

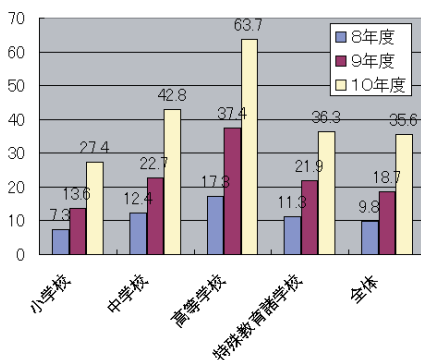
この教科「情報」は選択教科ではなく、英語と数学と同様、必修科目として設定されています。

ワードなどのワープロ、エクセルなどの表計算ソフトの活用はもちろんのこと、デジタルカメラや音楽

ファイルの処理など、これからの情報化社会に生きていく上で必要な技術を日本の高校生全員が学ぶことになります。

またネットワーク社会の到来を踏まえて、ネットワーク社会へどのように参加するか、また潜む危険、マナーについても学校の授業の中で学ぶこととなります。

平成8～9年度接続率推移



3) 生徒が自由に使えるコンピュータルーム

西陵商業高校には生徒がいつでも自由に使えるコンピュータルームがあります。

現在インターネットには128kbps（一般家庭の約2倍のスピード）で接

続され、昼休みや放課後には自分宛の電子メールをチェックしたり、授業の予習のために Web 検索を行う生徒でにぎわいます。

中には「占い」や好きな歌手のページに夢中になる生徒もありますが、自由な環境のなかで学習や趣味の時間にネットワークを活用しています。

生徒は液晶デスクトップの windows NT 端末を一人1台の環境で自由に使っているのですが、一人一人がネットワークに接続できるパスワードを持っており、誰がいつ使ったか教師側からいつでもチェックすることができます。



4) 授業でこう使っているインターネット

・電子商取引

エレクトリックコマースということばを聞かれたことがあると思います。インターネットを活用して貿易、商業取引を行うシステムです。

西陵商業高校でもこのシステムを使って、韓国の学校や、国内の学校と商業取引をしながら、Web の活用、経理の学習を進めています。

